

悠久会東京支部総会のご案内

下記のごとく、新潟大学工学部同窓会悠久会東京支部総会を開催いたします。多数のご出席をお願い申し上げます。

ご出欠は、**5月25日(水)**までに同封の振込用紙通信欄、郵便はがきまたは**Email**で東京支部宛てご連絡ください。また、平成23年度分の支部会費(2,000円)の納入をお願いいたします。**支部会費の振り込みも、5月25日(水)までに**お願いいたします。(振り込み手数料は恐れ入りますがご負担願います。)

なお、支部財政の都合上、支部会員全員へのご案内郵送および返信用はがきの封入は差し控えさせていただいています。ご了承のほど、お願いいたします。

東京支部長 東福寺幾夫(電気・S49)

出欠連絡先

E-mail : yukyukai_tokyo@yahoo.co.jp

郵便はがき：〒191-0032 日野市三沢 4-10-17-403 東福寺幾夫

記

1. 日時 平成23年6月25日(土) 午後2:00～7:30
2. 会場 お茶の水・ホテルジュラク(昨年と同じ)
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-9
TEL 03-3251-7222 FAX: 03-3251-7447
JR中央線・総武線御茶ノ水駅 聖橋口(東口)より徒歩5分
URL: <http://www.juraku.com/ocha/> 最終頁に案内地図を掲載します。
3. 会費 8,000円/人
4. プログラム
14:00～14:30 支部総会
14:30～15:00 母校近況・本部報告
15:15～16:15 講演 「中高年のための海外旅行講座」
武内康弘(NPO法人群馬コンgresサポート理事長)
16:30～18:30 懇親会
18:30～19:30 同じ会場で二次会

支部会費納入のお願い

東京支部の年会費は2千円です。支部総会の案内や会報の作成、印刷等に充当します。

同封の郵便振込用紙をご利用下さい(振込手数料はご負担ください)。健全な支部活動を継続するためにも、支部会員の証として是非納入して頂きますようお願い申し上げます。

郵便局振替貯金口座：東京 00130-2-74881 加入者名 新潟大学工学部同窓会東京支部

銀行口座：みずほ銀行吉祥寺支店 普通 2387528 新潟大学工学部同窓会東京支部 代表 林 昭彦

平成22年度悠久会東京支部会計報告

平成23年3月31日作成

会計担当 林 昭彦



平成22年度(平成22年4月1日～平成23年3月31日)の悠久会東京支部会計報告を下記の通り報告致します。

科目	合計	備考
【収入の部】		
年会費	220,000	110名分
総会会費収入	200,000	
各支部からのお祝い金	60,000	
本部からの支部総会助成金	50,000	
雑費収入	279	利子
平成22年度収入合計(A)	530,279	
平成21年度からの繰越収支差額	957,659	
収入合計(B)	1,487,938	
【支出の部】		
会報印刷費他	80,420	会報郵送代金
総会会議費	255,000	
渉外費	60,000	他支部総会祝金
雑費	625	手数料他
平成22年度支出合計(C)	396,045	
当期収支差額(A)-(C)	134,234	
次期繰越収支差額(B)-(C)	1,091,893	

平成23年 4月 7日

会計監査の結果上記報告で問題ありません。

会計監事: 田中 公紀



会計監事: 渡邊 準一



[支部長より]

巨大災害を契機として考えること

支部長 東福寺幾夫（電気・S49）

悠久会東京支部会員の皆様、先の東日本大震災では皆様どのような体験をされましたでしょうか。被害に遭われました皆様には、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興を祈念いたしております。また、きっと多くの同窓生が、救援・復旧・復興のために活動されておられることと思います。その献身的行動に、感謝いたします。

さて、東京支部長を拝命して、2年になろうとしております。昨年支部会報に書かせていただいた同窓会を取り巻く環境に大きな変化はなく、その活動の困難さには改善の兆しは見えていないように思います。

私自身、東京都日野市の自宅から群馬県高崎市の職場までの遠距離通勤をしており、また昨年度大きなプロジェクトのリーダーを務めることになったため、仕事漬けの日々を過ごしております。真に遺憾ながら、同窓会のあり方や組織、活動について落ち着いて考える余裕は全くありませんでした。したがって、東京支部の抱えている問題はそっくりそのまま先送りとなっております。支部長をお引き受けしておきながら、無責任だとのそしりは免れないと、反省しております。

ところで、今年の3月11日に発生した東日本大震災によって、見えるようになったことも多いと感じました。例えば、日本では人々が整然と避難行動をとり、災害地で略奪などの発生が皆無であること、様々な組織・団体が救援・復興のために立ち上がり、世界中の国々そして人々が救助隊派遣や様々な支援の手を差し伸べてくれたことなどです。

一方、社会インフラとして重要な原発と鉄道では、対照的な事象も見えてきます。原発では津波による非常用電源の流失という想定外の事象で最も重要な炉の冷却機能が喪失し、放射性物質を漏出させることになりました。ところが、時速300kmで走る東北新幹線では、列車の脱線や乗客の死亡など重大事故の発生は報じられておりません。この違いは、何に起因し、なぜ起こったのでしょうか？今後、技術的視点だけではなく、社会システムとしてその違いの理由を突き詰めていく必要があるように思います。

さて、もう一度同窓会について考えてみます。社会の変化とともに、人々の同窓会に対する期待は徐々に小さくなり、卒業生の多くは自分が卒業した大学や学校の同窓会に、価値を見いだせなくなってきております。その年々の変化は、極めて微小であったのかもしれませんが、何十年か経ってみると、同窓会が同窓生に期待することと、同窓生が同窓会に期待することが全く均衡のとれないものとなっていることに気が付き、そのギャップをどう埋めたらいいのか、解も見いだせない状況です。せめて、自分が役員をやっている間はなんとか維持し、次にバトンタッチするだけで精一杯の状況です。

震災後テレビでは、「絆」、「連帯」、「一緒」などの言葉があふれ、日本人もまだ捨てたものではないと思う今日この頃です。同窓会も絆のひとつであり、もしかすると、非常時にこそ機能を発揮するものかもしれないなどと、何もできなかった支部長の1年を振り返り、考えています。でも、なんとか姿を維持させ、次へのバトンタッチの努力だけは続ける覚悟でおりますので、皆様の叱咤激励をお願い申し上げます。

昆明滞在記

瀬尾 武巳（精密・S40）

05年5月から08年9月迄3年余り中国雲南省昆明市で仕事をする機会に恵まれた。この時の体験を何か書いて欲しいと頼まれたが文章を書くのは苦手故、感じた事、経験した事を思い出すままに拙文に纏めてみた。

最初に

未知の国へ定年退職後に仕事に行く事になった経緯：

05年1月、毎年ラスベガスで開催されるSHOT SHOWに友人と遊びに行った。

この時、後に世話になるとは夢にも思わず友人と一緒にある会社の社長と会食をしたが、種々話をしている内に私が以前光学メーカーにいて、品質管理と設計を担当していた事から、是非当社の手伝いをして貰えないか？という誘い話がでた。

会社の所在を問うと中国雲南省昆明市と言う。中国には行った事が無いし、昆明市というところに関しても全く知識が無い。躊躇していると「ともかく1回視察に来て欲しい」という事で、05年5月に視察と言う名目で1週間昆明を訪問した。

会社は光学製品の製造販売をしているが、確かに品質管理はおろか組織的な仕事などかなりいい加減でよくこれで利益が出ているな—という印象。やりがいはあるなど感じたことと、昆明という所は非常に気候が良く、ゴルフ場が近く、何時でも楽しめるという事、長期滞在はできないが毎月2週間の勤務でOKという事で、毎月通う事になった。

雲南省と昆明市

雲南省は中国32省都市の一つ、中国の東西中央部の南方に位置し、面積は日本よりも少し広く、南はベトナム、ミャンマー、ラオスに国境を接している。北は四川省、東は貴州省に囲まれた山間地である。省の北方は梅里雪山（標高7000m）のある徳欽、玉龍雪山（6000m）のある香格里拉など高山と高原地帯であり、南方は西双版纳という標高300m位の熱帯雨林地帯である。

昆明市は省都で標高1890mの高地にあるため、夏は涼しく冬は暖かく非常に過ごし易い気候に恵まれており別名「春城」と呼ばれている。人口は500万人の大都会である。また、雲南省は少数民族が多く、中国56民族の内、雲南省には26民族が生活しているとのこと。

国民性??

中国と一口で言っても余りにも広いので地域によってかなり異なると思う。

北京、上海、広州など東海岸沿いの発展している都市部とは単純に比較できないし、報道されているような対日感情が悪いという感じは殆ど無く、かなり友好的。だが個々の人々は一般に自己主張が強く、人の言うことは余り聞かない。知らない事でも知ったかぶりをする。何かを教えてもその時は従うが、いつの間にか自己流に変えてしまう。

という印象。従ってISO9001の認証を取得してQMSを定着させようとしたが、認証は取得したものの残念ながら、私が滞在している間には全く品質管理が機能するまでには至らなかった。

時間に対する感覚はやはり大陸的と言うのかルーズな事甚だしい。約束の時間どおりに事が運ぶことは先ず有り得ない。待ち合わせ時間は30分待たされるのは当たり前だし、会議などは定刻に始まる事は皆無。会議時間も決めずに、司会者も曖昧でしかも事前の資料等なしで行うから、各自言いたい事を喋り捲り、結論らしきものが出ないまま終わることもしばしばある。

時間で驚いたのは西双版纳に旅行した時の事。友人の故郷なので、彼は前日一足先に行っており、私は翌日13時の飛行機で行く事にした。フライトの1時間前に空港に行くと暫くして西双版纳に行く人はこちらへと案内される。就いていくと様子がおかしい。バスに乗せられたのはよいが、行く先は飛行機ではなく何とホテルではないか！

不安になり、隣の人に「西双版纳に行くんだよね」と拙い中国語で尋ねると大丈夫という。飛行機が遅れるのだと思い、やむを得ずホテルで待機していると4時間位して再びバスに乗せられてどうにか機上の人となることが出来た。西双版纳に着いてから友人に尋ねると飛行機が遅れたのではなく、13時の飛行機は乗客が少なかったもので、欠航とし、次の便まで待たされたのだと。啞然としたが、中国では日常茶飯事とのこと。乗客も急ぐ人はいないのか、最初からそういうものと諦めているのか文句が出ないから不思議である。（国際便は流石に当日欠航することはないが、乗客（予約客）が少ないと1～2週間くらい前に該当する便が欠航する旨を連絡してくる事がある。）

食事、酒

食材は海産物以外豊富、しかし料理は殆ど火を通し、油と唐辛子をふんだんに用いており、日本人にはしつこくて辛過ぎる。生野菜やサラダ、おひたしのような料理は殆ど無い。肉類は、鳥肉（鳩もよく出る）、豚肉、川魚が主流で牛肉は比較的少ない。

肉料理の特徴は必ず骨付きであること。うっかりがぶりとやろうものなら・・・

又鳥は足がそのままの形でされ、水掻きの部分がゼラチン質で美味しいのだと無理やり食べさせられる。鳥の足にある軟骨（人間でいうと掌に相当する部分にこりこりした部分がある）は珍味で酒の肴には向いている。

中国の酒というと、

- ・老酒：醸造酒の総称：アルコール度は日本酒と余り変わらない。（紹興酒もこの一種で産地は折江省）昆明では余り飲まない。
- ・白酒：蒸留酒の総称：高粱や雑穀が主材料：アルコール度は38%～70%。52%が一般的（有名な茅台酒もこの一種で産地は貴州省）
- ・ビール：国内各地で種々のビールがあるが日本の物より淡白。アルコール度も3～5%位（青島ビールが比較的有名）
- ・ワイン；昆明ではワインといえば赤ワインで（紅酒という）白ワインは見かけない。

通常、食事や宴会のときの酒は白酒が中心で、ビールは余り飲まない。冷えたビールと頼まないと暖かいものが出てくる。（中国では冷たい食物は身体に悪いという概念が一般的）又食事の際、酒は飲むけれど、先ず料理が先、暑い時など先ず冷えたビールを

飲みたいと思うのだが、料理を頼むのが先ゆえ、私が料理の前に先ず冷たいビールを頼むと変な顔をされる。私は料理を食べながら酒を楽しむのだが、彼らは基本的に食べるのが先で主食が終わってから飲み始める。もっとも 52 度の白酒を空腹時にいきなりストレートで飲んだらどうなるかは察しがつくと思う。

一般的な飯店では料理は当然大皿で出され、各自には小皿と小椀がつくが、この食器は大抵傷ついている。しかし誰も気にしない。種々の料理やスープをこの皿と椀に各人好きなものを取って食べる訳だが勿論取り箸は無く、各自が自分の箸を使う。

料理の味が混じるばかりか、時には私が慣れないと見るや「瀬尾さんこの料理、美味しいですよ」と自分の使っている箸で取り分けてくれる。断るのも悪いし、まあ 52 度の白酒で消毒するからいいか！と諦めることが度々ある。

私が昆明の料理で何時食べても美味しいなーと感じたのは過橋米線（「グオチアオミーシェン」という）。これは鶏がらの熱いスープに米で作った麺を入れて食べるのだが、トッピングが 10 種類くらい有り、いろいろの味を楽しめる。

結婚式

私のいた会社は若い人が多く結婚式に何回か招待された。様式は日本とは全く異なり、一応参列して欲しい人には招待状は出すが、招待状が無くとも誰でもちょっと祝儀を包めば参加できる。（大勢集まって貰い祝儀を戴くのが目的）だから殆どの結婚式は、400 人前後集まる。飯店を借り切って夕方から始まるのが普通だが、新郎新婦とその友人が入口におり、祝儀を渡して中に入る。会場には 10 人掛け位のテーブルが数十個準備されており、適当な席に座る。開始時間はいい加減だから、テーブルが満たされた処から、勝手に飲み食いを始める。おおよそ人員が揃った頃合、司会者が新郎新婦を紹介して、各テーブルを回り始める。テーブルでは新郎新婦にキスさせたり、一切れの肉を手を使わずに両側から食べさせたりと種々の趣向をこらしてお祝い(?)する。時間の制約は無く、飲食に満足した客は勝手に帰ってしまう。

最後まで悪友達が残りに、大抵徹夜で祝うのが慣わしらしい。

ゴルフ

昆明市周辺に 4 箇所あるが、一般庶民には全く無縁、昆明市内のスポーツ用品店ではゴルフ用品を置いていない。従ってゴルフ人口は少なく、一部の金持ちだけである。（プレー費はかなり高く 1,000 元～1,500 元：大卒の初任給が 1,000～2,000 元）

気候が良い（真夏でも 28℃位で乾燥している）ので何時でも殆ど汗もかかずにプレーできるし、スループレーが基本で大体 4 時間でラウンド可能だから、午後からでも充分ラウンドできる。（夏場は 8 時まで明るいので、4 時からのプレーも可能）

昆明では春城（スプリングシティ）というゴルフ場がコースも手入れもキャディーの教育も良く、プレーする機会がある方にはお勧めである。

悠久会東京支部囲碁同好会

幹事 田中公紀（電気・S51）

みなさんこんにちは。悠久会東京支部囲碁同好会は、平成14年3月に発足し、23年卒から54年卒まで総勢42名の同窓棋士会員により、“楽しく”をモットーに活動しております。

大会は、八重洲にあります「いずみ囲碁ジャパン」にて年2回、3月、9月の第3土曜日に開催しておりますが、今年の3月に予定しておりました大会は、東日本大震災を考慮し延期となりました。大会は回を重ね、第18回を数えております。

対局は、上位者と下位者の区別なく対局を行う形式が定着し、点数制のため置碁も体験できることで好評を得ております。

また、大会後の懇親会では、対局の振り返り、囲碁への情熱、個々人の近況などの意見交換により、楽しく有意義なイベントとなっております。

本同好会は、世代を越えた、楽しい交流の場となっております。

新規会員は大歓迎でありますので、参加ご希望の方は、幹事（Tel.044-933-9686、tanaka.hiroki@po.ntts.co.jp）までご連絡をお願い致します。

次回は9月17日（土）の予定です。体験参加はいかがでしょうか。

悠久会東京支部ゴルフ同好会

事務局 小林 徹也（機械・S54）

4月19日に出場者11名による第17回悠久会東京支部ゴルフコンペを川崎国生田ゴルフ場にて開催しました。

当日、午前中は雨の天気予報を覆し、朝から曇り、少し（2ホール分）雨、のち晴れのコンディションの中、皆さん楽しくラウンド致しました。



本コンペは平成15年に第1回を当時の東京支部長 原 宏さん(34年電気卒)の提唱により発足し、春秋の年2回開催により、今回で17回を数える会であります。ここ数年は、神奈川、埼玉の近隣支部からも毎回のご参加を頂いて開催しています。今回の優勝は実力者の川上勝彦さん(39年機械卒)が自己の持つ最多記録を伸ばす、5回目の優勝を成し遂げました。次回は今年10月18日(火)に同会場にて開催します。参加ご希望の方は下記までご連絡ください。 <小林徹也:t-kobayashi@mvf.biglobe.ne.jp>

支部総会会場案内図



編集後記

東日本大震災に被災されたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。

東京でも関東大震災以来ではないかと思われる強い揺れを感じました。原子力発電所や電力不足の問題など、東京支部の皆様もなにかと不安を感じられていることと思います。そんななかですが、例年通り支部会報を発行し、6月25日(土)には東京支部総会を開催させていただきます。講演会も用意しております。同窓会活動への皆様の積極的なご意見を戴けるよう、ご参加をお待ちしております。仕事と離れて恩師、同窓生と親交をあたためていただきたいと思ひます。

(倉田盛彦・電子・S54)